

先週末、アメリカ、カナダ、インド、日本の混成8人が集まって新潟市の古町で飲むことになった。全員、非喫煙者である。読者の方々はもう悲劇の先が予想できらう。そう、気持ちよく酒を飲む店がほとんどないのだから。

ちなみにアメリカ、カナダ、インドのレストラン、バーはすべて禁煙である。結局、午後9時まで禁煙のカレー専門店をお願いしてサラタや唐揚げ、カレー鍋などを用意してもらい、とても楽しく飲んだ。

ところが今度は二次会で行く店がない。だいたい離れたところの禁煙カフェに空席があるというの

# 時々 草々

越智 敏夫 (新潟国際情報大学教授)



たいのたろう。煙くないところでも飲んで飲みたいというのがそんなに無謀で賢い願いだらう。しかし居酒屋

## 非喫煙者集える店を

か。居酒屋には煙草がつきものだという意見もある。しかし居酒屋以外でも禁煙の店は新潟

市にほとんど存在しない。禁煙レストランは数軒ある。しかしそんなこ

直にいうと一番好きなのは日本酒である。ところが寿司屋でさえ私の知る限り、禁煙店は市内に4

もおそらく同様だろう。これが「うまさぎっしり新潟」の現状である。観光客に新潟で副流煙を吸って帰ってくださいというのか。「けむりぎっしり」と正直にボスターを書きかえらべきだ。観光客を減らしているのはいったい誰なのか。

このところ、わが家では県外からの友人家族との外食は回転寿司が多くなった。刺身と日本酒があつて、安くて禁煙だからである。

おち・としお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。

軒しかない。しかも(けちなわれわれ夫婦の感覚では)どこも値段が高く、特にそのうち2軒は卒倒するほど高い。

つまり佐渡沖の刺身などをつつきながら、新潟の銘酒を安くゆつくり飲みたい非喫煙者が行ける店は新潟市に存在しないのである。県内他地域

他人の煙など誰が吸い